

## 山鹿市民医療センター開放型病院広報紙

11月号



つ ば さ

Yamaga Medical Center

発行所 山鹿市民医療センター 〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地 TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420(代)  
FAX 0968-44-0071(連携室直通)

## 第8回市民公開講座を開催しました

当センターは熊本県指定がん診療連携拠点病院として、がんに関する予防、診断、治療および緩和ケアを地域の先生方と密に連携しながら、患者様一人ひとりに最適な医療を提供する体制を整えております。その一環としてがんに関する情報発信を継続しており、本年も9月27日（土）に市民公開講座を開催しました。今回で8回目となる本講座は「泌尿器



がんを知ろう！～腎臓・膀胱・前立腺がんの診断と治療～」と題し、約200名の皆様にご来場いただきました。

年齢とともに増加する主要な泌尿器がん3疾患の概略に加え、当センターのがん診療チームの活動内容や緩和ケア病棟について、医師、看護師、保健師、管理栄養士がそれぞれの立場から紹介しました。

前立腺がんのセッションでは、当センター医師が診断と局所治療について解説した後、熊本大学大学院生命科学研究部泌尿器科学講座教授 神波大己先生に「がんと長く付き合う時代の薬物療法」と題してご講演いただきました。前立腺がんにおける薬物



療法の歴史から、内分泌療法薬、抗がん剤、分子標的薬、骨転移に対する骨修飾薬、放射性同位元素など各治療薬の位置づけ、さらには個別化医療の現状と将来像までをわかりやすく解説していただきました。

また、例年同様に健康チェックコーナーおよび質問コーナーも実施し、多くの方にご参加いただきました。ご協力いただいた関係



者の皆様に心より御礼申し上げます。

当センターでは本年度より泌尿器科常勤医2名が着任し、泌尿器がんに対して幅広く対応できる体制を整えております。日常診療の中でがんが疑われる症例や治療方針に迷われた時は、どうぞお気軽にご相談ください。

(文責：泌尿器科長 中村 圭輔)

**基本理念**  
いのち  
**地域住民の生命と健康への貢献**

**基本方針****山鹿市民医療センターは**

- ① 患者さま中心の信頼される医療を行います
- ② 診療機能の充実に努め、質の高い医療を提供します
- ③ 地域の保健、医療、福祉の連携を推進します
- ④ 研修、研鑽に努め医療レベルの向上を図ります
- ⑤ 健全経営に努めます

**CONTENTS**

第8回市民公開講座を開催しました.....	P 1
健康長寿の秘訣～口腔ケア～.....	P 2
鹿本地域災害時保健医療福祉救護提供体制構築訓練に参加しました.....	P 2
医療最前線（170）.....	P 3
第85回公開講演会のご案内.....	P 3
外来担当医表（11月）.....	P 4

## 健康長寿の秘訣 ~口腔ケア~

去る9月16日（火）山鹿市歯科医師会主催による口腔ケア研修会を山鹿市民医療センターで行いました。講師は、くまもと県北病院歯科口腔外科病棟担当で口腔ケア専任の内場絹代歯科衛生士にお願いしました。看護師並びに歯科衛生士、医療関係者で44名の参加がありました。口腔機能、口腔細菌の全身への影響、口腔ケアの効果などを詳しく説明していただき口腔ケアの必要性が理解されたのではないかと思います。

口腔ケアに関して近年は呼吸器学会など医科の学会でも取り上げられるようになってきました。

高齢者や寝たきり患者さんでは口腔内の細菌が気道に入り込むことで誤嚥性肺炎を引き起こすことがあります。誤嚥性肺炎は日本人の死因の第6位（2024年）ですが口腔ケアによって肺炎の発症リスクを低下させることが証明されております。

また、歯周病はインスリン抵抗性を悪化させることが分かっており歯周病治療と適切な口腔管理によって血糖値が改善されることもあります。さらに歯周病菌は血流に入って心内膜炎や動脈硬化を引き起こすリスクがあるとされています。

入院患者さんにおいては人工呼吸器装着の患者に



おいてバイオフィルム（歯垢）内の細菌がVAP（人工呼吸器関連肺炎）の原因になります。口腔ケアをおこなうことにより咀嚼・嚥下・機能の維持につながり、術後の栄養摂取や全身状態の回復に寄与し、入院期間の短縮につながります。

このように口腔ケアは、「単なる清掃」ではなく「治療・予防の一環」であり予防的口腔ケアの導入により医療費削減・再入院予防にもつながるのではないかと考えられます。今後、医科歯科連携多職種連携により口腔ケアのネットワーク作りができたらと思います。

（文責：山鹿市歯科医師会 会長 河原 正明）

## 「鹿本地域 災害時保健医療福祉救護 提供体制構築訓練」に参加しました

令和7年10月4日（土）に鹿本総合庁舎で開催されました標記訓練に参加しました。この訓練は昨年度に引き続き2回目の開催となります。今年度は鹿本・植木圏域の病院6機関、有床診療所5機関、鹿本医師会、熊大病院災害医療教育研究センター、消防本部、行政機関と幅広い参加となりました。



当センターからは別府事業管理者、石河院長をはじめとする災害拠点病院本部スタッフならびにDMAT (Disaster Medical Assistance Team) 隊員、災害医療コーディネーターが各グループのファシリテーターとして参加しました。

今回は近年頻発する大雨による土砂災害及び浸水害、ライフラインの寸断、負傷者、行方不明者、要配慮者の発生、避難所の開設が想定され、浸水につ

いては最大規模想定となり浸水する医療機関も発生したとの前提となりました。訓練では主に医療機関毎にグループが割り振られ、5分から10分おきに配付される被害状況カードを元に初動体制の確立、災害マニュアルやBCP（事業継続計画）の実行、新EMIS（広域災害救急医療情報システム）入力、関係機関との情報共有、連携、患者搬送、受入等を限られた人員、医療資源の中で優先順位の判断等非常にリアリティがあり、慌ただしく対応することとなりました。

当センターは災害拠点病院としてEMISによる病院機能の発信及び管内医療機関の被災状況把握、被災患者の受け入れ、入院患者の安全確保、DMAT活動拠点本部の設置等のシミュレーションを行いました。

図上訓練ではありますが、災害時における職員の参集人数の把握、備蓄品、災害対応スペースの確保、確実な連絡手段の確立等多くの課題が浮き彫りになり大変有意義なものとなりました。

今回の訓練が、災害時における自施設及び地域の医療提供体制の課題解決に繋がるものと思います。今後も継続的な訓練、研修参加によりさらなる防災意識の向上に努めていきたいと思います。

（文責：経営管理課長 田尻 祐介）

## 医療最前線 (170)



### 胆道癌について

消化器内科医長  
竹熊 梨祐

胆道癌は胆のう癌、肝内・肝外胆管癌、十二指腸乳頭部癌の総称です。日本における1年間の罹患数は2万1617例（2021年）、死亡数は1万7239例（2023年）と報告されています。内訳は胆のう癌が約35%、胆管癌が約50%を占めます。一般的に、胆道癌は予後不良であり、切除例や切除不能例を含めた胆道癌全体での5年生存率は、20~30%とされています。治療成績がよくない理由の一つに、早期発見が難しいことが挙げられます。症状として黄疸や右上腹部痛を来すことがあります、しばしば無症状であることが多く、進行癌で発見されることも少なくありません。

血液検査、超音波検査などで胆道癌が疑われる場合には、CT・MRI (MRCPを含む)、必要に応じて内視鏡的逆行性胆管造影 (ERC) を行います。また、超音波内視鏡 (EUS) を用いた深達度診断も方針決定の一助となります。進行すると閉塞性黄疸を来しやすく、切除可能な場合には安全な外科切除のために、切除不能な場合は肝障害を軽減し化学療法を行えるようにするために内視鏡的胆道ドレナージも重要となります。

根治的治療としては外科切除が唯一で、局在診断、

深達度診断を行い、まずは根治切除が可能かどうかを判断します。発症部位により、胆のう摘出術、リンパ節郭清や肝臓の一部まで切除する拡大胆のう摘出術、脾頭十二指腸切除術などの術式があります。進行度によっては手術侵襲度が高くなるため、実際には患者さんの年齢や全身状態を、総合的に考えて手術適応が判断されます。

一方で切除不能な場合、化学療法が選択されます。効果が十分発揮され腫瘍が縮小し病状が安定した場合、その時点で切除術が行われるケース (conversion surgery) も報告されています。近年、胆道癌領域でもゲノム異常の解明が進み、高い治療効果を期待できる分子標的薬が開発されています。2024年9月に線維芽細胞増殖因子受容体 (FGFR) 阻害剤が、一定の条件を満たした治癒切除不能な胆道癌に保険適用が認められました。現在、免疫チェックポイント阻害剤である抗PD-1抗体、抗PD-L1抗体も治癒切除不能な胆道癌に対して、一定の条件を満たせば使用が可能となっています。さらに他の免疫療法薬の治験も現在進行しており、その結果が期待されます。

当センターでは、消化器内科、外科、腫瘍内科が連携して胆道癌治療を行っておりますので、診療でお困りの際は、いつでもご相談ください。今後ともよろしくお願ひいたします。

### 第85回公開講演会のご案内

#### (日本医師会生涯教育講座1単位)

取得カリキュラムコード 番号・コード名  
77. 骨粗鬆症

下記により第85回公開講演会を開催いたします。  
多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

鹿本医師会会長 幸村 克典  
山鹿市病院事業管理者 別府 透  
記

**日時**：令和7年11月14日（金）19:00～  
**形式**：ハイブリッド方式(オンライン参加 or 会場参加)  
**会場**：オンライン参加 or Zoomミーティング  
 会場参加 or 山鹿市民医療センター1階医療研修センター  
**演題**：「ロコモティブシンドローム  
 ~二次骨折予防のための骨折リエゾンサービス~」  
**司会**：山鹿市民医療センター 副院長 工藤 智志 先生  
**演者**：山鹿市民医療センター 整形外科 樽美 備一 先生

参加費：無料

【参加要領】下記参加URL、又は参加QRコードからご参加ください。

(参加URL) : <https://zoom.us/j/97391242333>

(参加QRコード) ⇒

ミーティング ID : 973 9124 2333

パスコード : 82594

※ミーティングに参加される際の【名前】欄には、必ず「氏名」と「医療機関名」をご入力ください。

※快適にご視聴いただくため、イヤホンやヘッドセットのご使用をお勧めいたします。



お問い合わせ先 山鹿市民医療センター

地域医療連携室 西田、古家

TEL:0968-44-2185 FAX:0968-44-0071

※共催：鹿本医師会

山鹿市民医療センター医療研修センター運営委員会

# 外来担当医表

11月

診療科名	月	火	水	木	金
呼吸器内科	※吉川嗣大	※赤池公孝	※後藤英介	—	※後藤英介
腫瘍内科	—	—	—	—	※宮本英明
消化器内科	中垣貴志	竹熊梨祐	本原利彦	中垣 竹熊 貴志 梨祐	本原利彦
内分泌・代謝内科	川崎修二	—	川崎修二	—	川崎修二
循環器内科	大庭圭介 清水博	大庭圭介 清水博	※中山智子 清水博	清水博 大庭圭介	大庭圭介 清水博
整形外科 (紹介外来制)	横田秀峰 樽美備一 山口裕介	工藤智志 樽美備一 山口裕介	手術 (担当医)	工藤智志 横田秀峰	手術 (担当医)
外科	別府透 石河隆敏 織田枝里	手術 (担当医)	別府透(新患のみ) 石河隆敏/増田稔郎 辛島龍一/織田枝里	手術 (担当医)	別府透 増田稔郎 辛島龍一
乳腺外科(予約制)	—	※富口麻衣	—	—	—
泌尿器科	中村圭輔	手術(担当医)	今藤淳之助	※神波大己教授	中村圭輔
小児科	小澄将士	小澄将士	小澄将士 (午後:予防接種)	小澄将士(午前) ※石井真美(午後)	小澄将士
*小児科の午後は、16:00受付終了となります					
耳鼻咽喉科(予約制)	—	非常勤医師	—	非常勤医師	—
眼科(予約制)	手術	特殊再来のみ	古島京佳	古島京佳	古島京佳(午前) 非常勤医師(午後)
産婦人科	非常勤医師(午後) (受付14:00~16:00)	※片渕美和子(午後) (受付13:00~16:00) 婦人科・思春期・更年期	—	非常勤医師(午前) ★非常勤医師(午後) (受付14:00~16:00)	非常勤医師(午前)
緩和ケア内科(予約制)	織田枝里	堀和樹	織田枝里	堀和樹	—
総合診療科(予約制)	吉岡明子	—	吉岡明子	—	吉岡明子
救急外来	泌尿器科医(午前) 吉岡明子(午後)	吉岡明子	大庭圭介(午前) 清水博(午後)	奇数週:担当医 偶数週:吉岡明子	外科医(午前) 消化器内科医(午後)
健診	高木茂	高木茂	高木茂	高木茂	高木茂

◎診療受付時間は、8:30(予約再診の方は8:00)~11:00

\* 非常勤医師です。 ★ 第2、第4のみ診療となります。

◎当日の受診に関する相談を除くお電話は、平日14時から17時までが受付となります。

## 特殊・専門外来 [予約制]

11月

名称	担当医等	実施日	診察場所
外来化學療法	担当医	毎週 火曜・水曜	各診療科
	※宮本英明	毎週 金曜(がん薬物療法専門医)	
睡眠時無呼吸外来	担当医	—	Aブロック
小児科予防接種	小澄将士	毎週 水曜(受付時間13:30~16:00)	
ストーマ外来	担当医	毎月 第3水曜(午後)	Bブロック
P E G 外来	担当医	毎月 第2水曜(午後)	
セカンドオピニオン外来	各専門医が担当します。 詳細はホームページをご覧ください。 予約については地域医療連携室にお尋ねください。		

◎急患の場合は、この限りではありません。

ご注意: 学会等の都合で変更になる場合があります。

◆睡眠時無呼吸外来については、現在は新規予約の受付を行っておりません。

◆最新の担当表は、ホームページをご覧ください。

山鹿市民医療センター

〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地  
TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420(代)  
FAX 0968-44-0071(連携室直通)  
<http://yamaga-medical-center.jp>